

学会活動の回顧と展望

できるシステムを採用した。

(3) 支部会規約の改定・整備

円滑な支部運営のために、関東支部規約を2007(H19)年度の総会にて一部改定した。その内容の要点を以下に示す。

① 第9条(支部役員職務)(4)

支部監事は支部事業および支部会計の監査を行う。

② 関東支部役員選出に関する申し合わせ

選挙人、被選挙人等の選出について、その対象を支部役員改選選挙実施年度の7月1日現在とした。

4.5) 2名の副支部長は、支部長候補者が選挙で選出された支部幹事候補者の中から指名し、支部役員会の承認を受ける。

4.5.6) 支部役員会において選出された約55名の被選挙人について支部正会員による選挙を実施し、21位までの候補者に、次期支部長候補者が研究領域および所属機関所在地の偏りの是正等のために指名する4名以内を加えて支部幹事候補者とする。

③ 選挙管理委員会規定を策定した。

6. おわりに

1998年度から2007年度までの支部活動をここに整理してみると、たくさんの企画が行われている。企画に出席した方からはとてもよかったとの感想が聞かれる。会員を増やし、家政学の振興につなげるように、何とかそのよさを広め、若者へアピールすることの必要性を痛感する。

中 部 支 部

中部支部長 小川 宣子

1. はじめに

(社)日本家政学会の創立60周年を迎えるにあたり、心よりお喜び申し上げます。

「生きる力」の必要性が言われ、これは人間としての実践的な力が社会で生かされることを意味し、そのためには家政学が果たす役割は大であると考え、[日本家政学会60周年記念特集号]発刊にあたり、中部支部の活動をふりかえると、諸先生方がそれぞれの社会状況に見合った活動をされておられたことを鑑みることができる。このようなご尽力こそがこれまでの日本家政学会の発展を支えてきたのであり、先輩の諸先生方に深く感謝申し上げます。

2. 支部の地域・会員数

中部支部の所属地域は、愛知、岐阜、長野、三重、石川、富山、福井の7県である。会員数は430余名である。会員数の55%以上を占める愛知は4グループで編成されグループごとに、他県は県ごとの会員数に応じて役員数を決定している。特に北陸は会員数が少なく、支部大会を開催するのも非常に困難な状況となっている。

3. 歴代支部長・副支部長など

支部長は日本家政学会代議員経験者の中から、副支部長は支部役員経験者の中から役員選考委員会を選出し、支部総会の承認を得て決定される。10年間の支部長・副支部長を表1に示す。

この他に役員として会計、庶務、企画(HP含む)、若手の会、監査を設置している。

評議員(平成16年度より代議員)は、(社)日本家政学会の本部から提示された人数の7名を本部規定に則

表1. 歴代支部長・副支部長

年度	支部長	副支部長
平成10-11	大野庸子	—
平成12-13	大野庸子	—
平成14-15	大羽和子	高阪謙次
平成16-17	山下かなへ	豊田幸子
平成18-19	小川宣子	山澤和子

表2. 評議員(平成16年度より代議員)氏名

在任年度	氏 名
平成10-11	天羽教子, 大羽和子, 近藤博信, 島田裕子, 谷由美子, 山岸雅子, 森 俊夫
平成12-13	天羽教子, 大羽和子, 小川宣子, 近藤博信, 島田裕子, 山岸雅子, 森 俊夫
平成14-15	石原久代, 小川宣子, 尾畑納子, 高阪謙次, 長谷川昇, 水谷令子, 山下かなへ
平成16-17	小原章裕, 尾畑納子, 川村昭子, 竹内若子, 富田明美, 長谷川昇, 山澤和子
平成18-19	東 珠実, 太田寿江, 岸松静代, 岸本 満, 千 裕美, 長野宏子, 乗本秀樹

り、役員選考委員会が選出し、支部総会に報告する。
この10年間の評議員（代議員）を表2に示す。

4. 活動概要

ここでは平成10（1997）年から平成20（2007）年の10年間について中部支部の活動等の事業についてまとめる。

(1) 総会

平成10年度総会	1998.10.24	愛知学泉大学
平成11年度総会	1999.10.30	東海女子短期大学
平成12年度総会	2000.10.15	名古屋聖霊短期大学
平成13年度総会	2001.09.29	鈴鹿国際大学
平成14年度総会	2002.09.12	名古屋女子大学
平成15年度総会	2003.09.12	椋山女学園大学
平成16年度総会	2004.09.17	岐阜女子大学
平成17年度総会	2005.09.17	金城学院大学
平成18年度総会	2006.09.09	名古屋文化短期大学
平成19年度総会	2007.09.15	名古屋学芸大学

(2) 総会・大会

- ・第44回総会 1998.10.24 愛知学泉大学
研究発表：口頭23件，ポスター9件
講演会：「声は人なり，ことばは心なり—論理的に話す—」
講師 愛知学泉大学教授 小六英介
- ・第45回総会 1999.10.30 東海女子短期大学
研究発表：口頭32件，ポスター9件
講演会：「カウンセラーから見た子どもの人権」
講師 東海女子大学教授 生田純子
- ・第46回大会 2000.10.15 名古屋聖霊短期大学
研究発表：口頭28件，ポスター6件
講演会：「私たちの身近な生活と環境」
講師 南山大学総合生活学部教授 江田信豊
- ・第47回大会 2001.09.29 鈴鹿国際大学
研究発表：口頭28件，ポスター8件
講演会：「国際協力における家政学者の役割」
講師 鈴鹿国際大学教授 クマール
- ・第48回大会 2002.09.12 名古屋女子大学
研究発表：口頭31件，ポスター12件
講演会：「健康とバイオテクノロジー」
講師 名古屋女子大学教授 垣沼淳司
- ・第49回大会 2003.09.12 椋山女学園大学
研究発表：口頭17件，ポスター9件
講演会：「ジェンダーの視点で読み解く法律学」
講師 椋山女学園大学教授 上田純子
- ・第50回記念大会 2004.09.17 岐阜女子大学

研究発表：ポスター40件

基調講演：「生きる力をそなえた人づくり—家政学への期待」

講師 各務原市長

岐阜女子大学特別客員教授 森 真

フォーラム

スピーカー： 名城大学農学部助教授 小原章裕

岐阜女子大学家政学部教授 三輪聖子

岐阜婦人子供服工業組合理事長 松原一廣

フロアー発言：大垣桜高等学校教員 田島真知子

関市学校給食センター栄養士 土屋ひろ子

コーディネーター：

岐阜女子大学家政学部教授 小川宣子

・第50回大会 2005.09.17 金城学院大学

研究発表：口頭5件，ポスター26件

シンポジウム：「大改革と家政学の行方」

シンポジスト： 東海学園大学 南 廣子

椋山女学園大学 高阪謙次

金沢大学 尾島恭子

岐阜市立女子短期大学 宮本教雄

コーディネーター： 金城学院大学 古寺 浩

・第51回大会 2006.09.09 名古屋文化短期大学

研究発表：ポスター46件

講演会：「ことばと人間関係」

講師 名古屋文化短期大学専攻科講師 森 孝子

交流会：冷凍食品の上手な利用方法

・第52回大会 2007.09.15 名古屋学芸大学

研究発表：口頭25件

講演会：「夢の長寿社会」

講師 名古屋学芸大学学長 井形昭弘

(3) 研究活動

平成10年度

・1998.07.25 今池ガスビル

日本家政学会創立50周年記念事業

中部支部市民フォーラム

講演会：「たまごの不思議—家庭生活を科学する」

講師 岐阜女子大学教授 小川宣子

平成11年度

・1999.10.30 東海女子短期大学

懇談会：「生活経営・被服・住居・食物の4領域で
今後へ向けて懇談」

平成12年度

・2000.12.21 名古屋女子大学

インターネット研修会

学会活動の回顧と展望

平成 13 年度

- ・2002.03.24 ウイルあいち
学生の研究発表
シンポジウム：「循環型社会の形成へ向けて一
家政学からのアプローチ」
シンポジスト：大藪千穂・酒井映子・島田裕子・
松居正樹・大野庸子

平成 14 年度

- ・2002.10.27 愛知芸術文化センター
フォーラム：「共同参画型社会に向けて、家政学を
どのように生かせるか」
話題提供者：小野幸一・高間 睦・中森千佳子・
福田靖子・堀江和代・大野庸子

- ・2003.03.09 ウイルあいち
学生の研究発表

平成 15 年度

- ・2003.10.26 ウイルあいち
フォーラム：「循環型社会を目指すライフスタイル
のあり方」
話題提供者：平出 勝・萩原喜之・長谷川昇・
大羽和子

- ・2004.03.10 名古屋女子大学
院生・学生研究発表会

平成 16 年度

- ・2005.03.08 名城大学
院生・学生研究発表会

平成 17 年度

- ・2006.03.06 椋山女学園大学
院生・学生研究発表会

平成 18 年度

- ・2007.03.05 岐阜女子大学文化情報研究センター明
徳キャンパス
家政学関連院生・学生研究発表会

平成 19 年度

- ・2008.03.03 岐阜女子大学文化情報研究センター明
徳キャンパス
家政学関連院生・学生研究発表会
(4) 全国大会開催

(社)日本家政学会の全国大会が、この10年間で2回開催された。第51回大会が名城大学・ウイルあいち(主管校 名古屋女子大学)にて、第59回大会が岐阜市の長良川国際会議場(主管校 岐阜女子大学)にて開催された。どちらの大会も中部支部会員の多大なる協力のおかげで滞りなく実施することができた。

(社)日本家政学会第51回大会

開催日：平成11年5月28～30日
場 所：ウイルあいち、名城大学

第1日

- ・一般公開講演：「21世紀の健康と生活の質」
講師 あいち健康の森・健康科学総合センター長
井形昭弘

- ・シンポジウムⅠ：「生活の質を問う」

第2日

- ・研究発表
- ・若手の会主催講演会：「女性研究者のプロ意識」
講師 名古屋大学生物分子応答研究センター助教授
高倍鉄子

- ・総会・学会賞授与式

- ・特別講演：「どうなるこれからの暮らし」

講師 中部大学大学院経営情報学研究科教授
飯田経夫

- ・シンポジウムⅡ：「震災研究から考える家政学の新しい視点」

- ・懇親会

第3日

- ・研究発表
- ・ポスターセッション

(社)日本家政学会第59回大会

開催日：平成19年5月11～13日
場 所：岐阜市長良川国際会議場

第1日

- ・講演1：「安全安心な社会—生活との関わりから」
講師 東京大学先端技術研究センター教授
御厨 貴

- ・講演2：「安全安心な国際社会づくりの取り組みと家政学」

講師 国際協力機構客員専門員社会開発アドバイザー
小向絵里

- ・総会・学会賞授与式

- ・エクスカージョン 長良川「鵜飼開き」の見学

第2日

- ・研究発表・ポスターセッション

- ・講演：「江戸時代の美濃」

講師 岐阜市立女子短期大学学長 松田之利
鵜飼実演 宮内庁式部職鵜匠代表 山下純司

- ・特別講演：「安全安心な社会—美しくするには」

講師 岐阜女子大学学長 堀 幹夫

- ・シンポジウム：「安全安心で豊かな社会を目指して」

シンポジスト

「食品企業での取り組み」

上海味の素食品研究開発中心有限公司 野坂千秋

「赤ちゃんを産む」 お茶の水女子大学 菅原ますみ

「高齢者への心遣い」 放送大学 松村祥子

「おしゃれと心の豊かさ」 文化女子大学 古賀令子

コーディネーター

和洋女子大学 大会運営委員長 畑江敬子

・懇親会

第3日

・研究発表・ポスターセッション

・ミニ講演1:「悪徳商法, こんな手口に気をつけて」

講師 岐阜市消費生活センター副主査 片倉真理子

・ミニ講演2:「生活の中の情報の考え方」

講師 岐阜大学総合情報メディアセンター教授

篠田成郎

・若手の会

シンポジウム:「家政学を活かす—産官学で連携する—」

(5) 内規・申し合わせの改正

「支部役員および本部理事・代議員候補者の選出内規」を平成13年, 平成15年, 平成18年に, 「申し合わせ」を平成18年に改正した。

(6) その他

広報活動として支部のホームページを立ち上げ, さらにリニューアルを実施し活動内容や情報を発信してきた。また支部のメーリングリストの立ち上げも行い活用されている。

若手の会の活動もホームページを立ち上げ, 研究会やシンポジウムを実施し活発化をはかっている。

5. 今後の展望

社会が要求していることがらは家政学がまさに取り組んでいる内容である。しかし, その取り組み内容は社会に知られていないのが現実である。家政学の活性化のためには, 日本家政学会から情報発信をするとともに, 他の分野と共同研究, そして若手の入会促進を行うということが肝要であろう。

中部支部では, 情報発信として支部活動をホームページで詳細に紹介するとともに, 活動内容を知っていただくために教員を対象としたシンポジウムの開催を積極的に実施している。複合分野との共同研究として若手の会では「食育・服育・住育」を共通テーマとして, 定期的な研究会を行っている。

若手の方に多数入会していただくために, 平成14年度から学生・大学院生の研究発表を実施し, 学生には大会の参加費や懇親会費の無料化を図り, 学生たちの仲間づくりや学会の様子を知ってもらう機会の設定を行ってきた。

これらの結果, 学生会員の入会者数の増加や大会の参加者の年齢層が若くなり, 男性の参加者も増えてきている。

大会会場も従来のように大学での開催が難しくなっており, 大学以外の会場における開催の増加が経費に負担をかけるようになってきている。

いままでの諸先輩の先生方がそれぞれの社会に応じた企画や対応により, 日本家政学会の発展につくしてこられたことを考えると, 会員の増員や社会への家政学認知の方法などを支部会員とともにさらなる検討をしていくことが課題であろう。

関西支部

関西支部長 小野木 禎彦

日本家政学会設立50周年後の関西支部10年間(1998年から2007年)の活動を紹介したい。この10年間では関西支部長は西村一朗先生(奈良女子大学, 現在平安女学院大学)が2期目の2年, 的場輝佳先生(奈良女子大学, 現在関西福祉科学大学)が2期4年, 磯田憲生先生(奈良女子大学)が1期2年, 今井範子先生(奈良女子大学)が1期2年, それぞれ選挙により選出され支部長として務められた。支部長はすでに

「50周年記念特集号」にも記されているように, 正会員による選挙で選ばれるようになった。現在は, さらに改正が行われ, 10名の支部役員選出委員により, 支部長候補者3名以内を推薦することになっている。その後, 支部正会員による投票にもとづき, 支部長候補者1名を選出し, その後の支部総会で承認を得るという手続きが取られている。なお, 支部長任期は最長で連続3期であるが, 支部長2期4年でもその負担が